

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 28 年度）

1. 機 関 番 号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C)（一般） 4. 補助事業期間 平成 27 年度～平成 29 年度
5. 課 題 番 号 1 5 K 0 2 0 3 7
6. 研究課題名 近世中国におけるムスリムの問答体文献の研究
7. 研究代表者

研究 者 番 号	研究 代 表 者 名	所 属 部 局 名	職 名
7 0 4 4 7 6 7 1	サトウ ミノル 佐藤 実	比較文化学部	教授

8. 研究分担者

研究 者 番 号	研究 分 担 者 名	所属研究機関名・部局名	職 名

9. 研究実績の概要

前近代の中国において、君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の五つの人倫関係を説く五倫概念が伝統的にあるが、五倫を専論する『小学』や『五倫書』では君臣と父子にたいする記述が圧倒的に多く、それにたいして夫婦関係については『礼記』にみえる婚礼に関する記述と、夫唱婦随などが説かれるにすぎなかった。一方、清初に生きた劉智の『天方典礼』をはじめ明末清初期のムスリムが著したイスラーム哲理書においても五倫という概念が使われるのだが、そこでは夫婦関係を五倫の先頭に置くものが散見されることがわかった。その根拠となるのが、人間は男女の夫婦関係から生まれるという自然学的生成論的観点である。夫婦関係を重視する思想自体は、『周易』以来、中国の伝統的な自然観でもあるが、『天方典礼』では「夫婦→父子→君臣→兄弟→朋友」という順序も関係性も「天理流行」、つまり、本来的に定められた、そうしなければならない事柄であると解説する。この「天理流行」という概念は朱熹の思想の根幹にかかわるものであり、劉智がこの「天理流行」と、それと意味論的に連関するタームを使用しているところに、中国ムスリムの思考の有り様において宋学が伏流するさまがみてとれる。また『天方性理』の中国思想史的、イスラーム思想史的な位置づけおよび当該書の全体的な理解も進展している。今後は『希真正答』との関わりに焦点をあてて、明末清初期の中国イスラーム思想の一端を明らかにしたい。

10. キーワード

(1) 中国イスラーム

(2) 劉智

(3) 朱熹

(4) 宋学

(5) 『希真正答』

(6) 『天方性理』

(7) 『天方典礼』

(8)

11. 現在までの進捗状況

(区分) (2) おおむね順調に進展している。

(理由)

『希真正答』の解釈および分析に時間を割いているが、その他の中国イスラーム思想文献についての理解や思想史的位置づけが、確実に進んでいる。

12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

『希真正答』の解釈および分析に重点をおき、その他の中国イスラーム思想文献との関連を考察する。

(次年度使用額が生じた理由と使用計画)

(理由)

初年度に海外調査が実施できなかったことによる。

(使用計画)

今年度に海外調査を実施するとともに、関連資料の収集につとめる。

13. 研究発表（平成 28 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 0 ）件／うち査読付論文 計（ 0 ）件／うち国際共著 計（ 0 ）件／うちオープンアクセス 計（ 0 ）件

著 者 名	論 文 標 題				
雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）					
オープンアクセス					

〔学会発表〕 計（ 0 ）件／うち招待講演 計（ 0 ）件／うち国際学会 計（ 0 ）件

発 表 者 名	発 表 標 題	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所

〔図書〕 計（ 0 ）件

著 者 名	出 版 社	
書 名	発行年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計（ 0 ）件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（ 1 ）国際共同研究： -

17. 備考

--